

沖縄女短大 国吉 静子

1. 今、沖縄の住民にとって「沖縄自体を知る」ことが緊急であるように思われる。

願望であった日本復帰への具体化も進められつつあるが、民俗意識としての喜びとは別に、住民は復帰不安にかられている。それは、現在の生活より、よくなるであろうか、という現在の生活を基準においての未知への不安である。現在の生活が満足の状態であるということではなく、もっとよりよい生活への期待と要求を含めた、政治・経済の変化に伴う懸念である。このような状態にある沖縄で、主婦の生活意識の調査は、「沖縄を知る」糸口となりうると考えた。

2. 沖縄の主婦を対象に、主婦の生活意識の調査を行ない、沖縄を知ろうとする。ある対象物との比較において、その実態はより具体的に理解されやすい。そこで学芸大の田村喜代氏の「主婦の生活意識と社会文化的背景の実証研究」(43年家政学会発表)の対象群との比較によって考察を進めることにした。

3. 沖縄の生活水準、沖縄の主婦のもつ生活意識の志向、沖縄の社会の特性と遅滞性を究明した。それらの要因は、歴史的趨勢の中に固定観念となっている潜在的な退嬰性に起因するところが大きい。それらからの脱皮を、どう啓発させるかが今後の課題となる。